

第 3 4 回水の週間実施報告書



平成 2 2 年 1 0 月
水の週間実行委員会

第34回「水の週間」ウォーターフェア'10東京は、後援機関、協力団体及び協賛団体の皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

国土交通省	東京都	水の週間実行委員会
-------	-----	-----------

後援機関

文部科学省	厚生労働省	農林水産省
経済産業省	環境省	(独) 水資源機構
(財) 日本科学技術振興財団	日本放送協会	(社) 日本新聞協会

協力団体

TOTO(株)	三菱レイヨン・クリンスイ(株)	電源開発(株)
東京電力(株)	NPO法人日本水フォーラム	

協賛団体（五十音順）

(財) 河川環境管理財団	(財) 河川情報センター	(社) 建設広報協議会
(社) 建設コンサルタンツ協会	(財) 国土技術研究センター	(財) 砂防・地すべり技術センター
(財) 砂防フロンティア整備推進機構	石油連盟	(社) セメント協会
(社) 全国建設業協会	(社) 全国建築物飲料水管理協会	(財) ダム技術センター
(財) ダム水源地環境整備センター	(社) ダム・堰施設技術協会	電気事業連合会
(社) 日本埋立浚渫協会	日本衛生設備機器工業会	(社) 日本ガス協会
(社) 日本経済団体連合会	(社) 日本建設機械化協会	(社) 日本水道工業団体連合会
日本製紙連合会	(社) 日本鉄鋼連盟	(社) 日本電機工業会
(社) 日本道路建設業協会	(社) 日本土木工業協会	(社) 日本ホテル協会
(社) 日本林業土木連合協会	ビール酒造組合	(財) リバーフロント整備センター

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット	(社) 日本水道協会	(財) 利根川・荒川水源地域対策基金
(財) 造水促進センター	全国簡易水道協議会	(社) 日本治山治水協会
(社) 日本下水道協会	(社) 土木学会	(社) 日本河川協会
(財) 日本ダム協会	(社) 農業農村工学会	(社) 日本工業用水協会
(社) 全国治水砂防協会	(独) 水資源機構	

(目 次)

第34回「水の週間」の開催にあたり	2
第34回「水の週間」行事の概要	3
ウォーターフェア'10東京	4
水の週間記念シンポジウム	5
ウォーターフェア'10東京「水の展示会」	7
平成22年度水資源功績者表彰	13
第32回全日本中学生水の作文コンクール	15
第25回水とのふれあいフォトコンテスト	17
第30回ウォーターフェア隅田川レガッタ	20
利根川水系における上下流交流	23
水の週間一斉打ち水大作戦	24
国や地方公共団体等での実施状況	25
第34回水の週間新聞等報道状況	27
「水の週間」実施経過	28
水の週間実行委員会について	30

※表紙の写真は、第25回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ受賞作「隅田川遊覧」：多和裕二氏

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月上旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第34回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会会長 青山 俊樹

水の週間実行委員会は、政府の「水の日」、「水の週間」の主旨に賛同した、水と深い関わりをもつ団体が昭和53年に設立したもので、これまで、「水の日」、「水の週間」に関わる各種行事を積極的に実施して参りました。本年の「水の週間」におきましても、多数のご協賛をいただき、東京での中央行事「ウォーターフェア'10東京」を開催することとなりました。紙面をお借りいたしまして、改めて御礼申し上げます。

さて、去年の気象状況を全国的にみますと、1月は北日本や東日本を中心に気温が高く、1月末には100mmを超える降水量を記録しました。この降雨と2月の気温が高かったことにより、利根川水系では融雪が始まり、例年では利根川上流8ダムの貯水量が減少する2月に、貯水量が増加する異例の現象が見られました。

9月は全国的に高気圧に覆われて降水量が少なく、東・西日本を中心に記録的な少雨となりましたが、10月には台風18号が本州に上陸し、広い範囲で大雨をもたらしました。

こうした状況の中、第34回水の週間のテーマは「水の安全・安心を考える～知っているようで意外と知らない、身近な水のことについて～」ということで、普段利用している水がダムや用水路、蛇口に至るまで、様々な役割とそれらに関わる方々の努力に支えられていることを知っていただくこととしました。

安定した水供給のためには今後もより多くの方々に、水資源に対する関心と理解を深めていただくことが大切であり、「水の週間」の活動を通じて『水の有限性・重要性』についての関心と理解を深めていただくため、科学技術館において、“水の週間記念シンポジウム”の他、8月1日まで「水の展示会」を開催いたします。展示会では、「全日本中学生水の作文コンクール」の入賞作品や「水とのふれあいフォトコンテスト」の入賞作品なども展示させていただいています。また、より水に親しんでいただくため8月8日に隅田川において「第30回ウォーターフェア隅田川レガッタ」を開催することとしています。

このほか、水源地域と水の受益地とが相互に理解を深めるための上下流交流活動やダムや水路などの施設に親しんでいただくための施設見学会などをはじめ数多くの行事が全国各地で開催されます。

このような活動を通じて、水の週間実行委員会は、私たちの生活と水との関係により一層関心をもっていただくとともに、水源地域の皆様方のご協力に対し、改めて感謝する活動に、積極的に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今後とも皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

第34回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
ウォーターフェア '10東京	1. 水の展示会(入場無料) 日時:平成22年7月30日(金)～8月1日(日)9:30～16:50 場所:科学技術館(2階展示ホール) ※初日のみ10:30～ 内容:「水の安全・安心を考える」をテーマにした各種展示のほか、パネル等により日本の水資源の現状を分かりやすく紹介。また、水資源功績者の紹介パネルや全日本中学生水の作文コンクール及び水とのふれあいフォトコンテストの各入賞作品の展示 2. 水の週間記念シンポジウム(入場無料) 日時:平成22年7月30日(金) 13:30～16:30 場所:科学技術館(地下2階サイエンスホール) 内容:①基調講演 三日月大造(国土交通副大臣) ②話題提供 ③パネルディスカッション 「節水は新たなエコビジネスになりうるのか?～節水型ライフスタイル・社会システムの提案～」をテーマに、今後の国内における節水の普及、海外も含めた新たな方向性について、議論を展開	主催:国土交通省 東京都 実行委員会 (注) 後援:文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 環境省 (独)水資源機構 (財)日本科学技術振興財団 日本放送協会 (社)日本新聞協会
水の週間関連表彰式	日時:平成22年8月2日(月) 11:00～12:00 場所:国土交通省特別会議室(中央合同庁舎3号館4階)	主催:国土交通省
①水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与	主催:国土交通省
②第32回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生による水の作文コンクールを実施 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:国土交通省、都道府県 後援:文部科学省 全日本中学校長会 (独)水資源機構、実行委員会
③第25回水とのふれあいフォトコンテスト	「水辺の憩い、水のある風景」、「くらしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマとしてフォトコンテストを実施 優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:実行委員会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構
第30回ウォーターフェア隅田川レガッタ	日時:8月8日(日) 10:00～16:30 場所:隅田川(言問橋～吾妻橋間) 内容:一般・中学生等によるエイト、ナックルフォアを実施 隅田川レガッタと隅田川浄化用水に関するパネル展示を実施	主催:(社)東京都ボート協会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構外 協賛:実行委員会外
利根川水系上下流交流会	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催 「草木湖まつり」での上下流交流 8月15日(日)	主催:みどり市 協力:東京都墨田区 東京都水道局、実行委員会
水の週間一斉打ち水大作戦	日時:8月1日(日)～8月7日(土) 場所:趣旨に賛同いただける団体の建物前ほか 内容:雨水や風呂の残り湯など、水道水以外の水を有効利用し、クーラーにない「涼」を実感	主催:国土交通省、都道府県外
水源施設等の見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施	主催:都道府県 (独)水資源機構外
その他各地での特色ある行事	全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施	
広報	ラジオ、新聞、雑誌、電光板ニュース等による各種の広報活動を実施	
ポスターの掲示	キャッチフレーズ「水の安全・安心を考える」を掲げたポスターを全国の各都道府県、各市町村並びに関係機関等に配布	
パンフレットの配布	「日本の水2010」を中学校等に配布し、施設見学会、講演会等に活用	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

ウォーターフェア '10 東京

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について広く国民の皆さんに関心を持っていただき、理解を深めていただくため、「水の週間」の中央行事として、「ウォーターフェア '10 東京」を実施しました。

(主催：国土交通省、東京都、水の週間実行委員会)

平成22年7月30日(金)から8月1日(日)まで、科学技術館2階イベントホールにおいて「水の展示会」を行うとともに、7月30日(金)に同館のサイエンスホールにおいて「水の週間記念シンポジウム」を開催しました。

また、8月2日(月)には、国土交通省において「水の週間関連表彰式」を実施しました。



水の展示会オープニングテープカット

(右から青山俊樹 水の週間実行委員会会長、谷本光司 国土交通省土地・水資源局水資源部長、河島均 東京都技監)

水の週間記念シンポジウム



水の週間記念シンポジウム（三日月大造 国土交通副大臣 基調講演）

平成22年7月30日（金）、北の丸公園（東京都千代田区）内の科学技術館（サイエンスホール）において、第34回水の週間ウォーターフェア'10東京 水の週間記念シンポジウムを開催しました。

当日は約250名の方にご来場頂き、三日月大造国土交通副大臣の基調講演、パネルディスカッションなどが行われました。

パネルディスカッションでは、北野大明治大学教授をコーディネーターに迎えて、節水の普及等について活発な議論が行われ「巧水（たくみ）スタイル」をキーワードに産学官連携の取り組みを今後も進めていくことなどが提案されました。

◆基調講演

「日本が誇る水の知恵を海外に」 三日月大造（国土交通副大臣）



◆話題提供

- 「住宅での水消費と節水機器の開発動向」 豊貞 佳奈子（独立行政法人建築研究所）
「環境影響評価のための水使用実態調査報告」 清水 康利（日本衛生設備機器工業会）
「節水機器普及の社会への影響」 山海 敏弘（独立行政法人建築研究所）
「節水への取組」 門田 浩司（愛媛県松山市総合政策部水資源担当部長付推進監）



豊貞佳奈子 氏



清水康利 氏



山海敏弘 氏



門田浩司 氏

◆パネルディスカッション

・テーマ

節水は新たなエコビジネスになりうるのか？～節水型ライフスタイル・社会システムの提案～

・コーディネーター 北野 大（明治大学教授）

・パネリスト

山海 敏弘（独立行政法人建築研究所）門田 浩司（愛媛県松山市総合政策部水資源担当部長付推進監）清水 康利（日本衛生設備機器工業会）豊貞 佳奈子（独立行政法人建築研究所）高辻 育史（経済産業省製造産業局日用品室長）谷本 光司（国土交通省土地・水資源局水資源部長）



パネルディスカッションの様子



北野大 明治大学教授

ウォーターフェア' 10 東京「水の展示会」

7月30日から8月1日までの3日間、科学技術館（千代田区北の丸公園内）において、ウォーターフェア' 10 東京「水の展示会」を開催しました。

「水の安全・安心を考える～知っているようで意外と知らない、身近な水のことについて～」をテーマとして、多くの組織、団体による多彩な展示が行われました。また特別展示として「平成22年度水資源功績者」、「第32回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第25回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品を展示しました。

展示期間中は、同時期に開催されていた“青少年のための科学の祭典”（7月30日から8月1日まで）に訪れた子供達をはじめ、親子連れを中心に多くの方々（約8,000名）にご来場いただきました。

今年も、民間企業の展示をはじめとして、参加体験型のコーナーが設けられるなど、各出展団体による趣向を凝らした展示が行われました。

◆展示テーマ 「水の安全・安心を考える

～知っているようで意外と知らない、身近な水のことについて～」

「意外と知らない、日本の水・世界の水」

【国土交通省】

「からだとくらしにいい習慣。東京水」

【東京都水道局】

「水はどこからくるの？」

【水の週間実行委員会】

「荒川を知ろう・学ぼう！」

【国土交通省関東地方整備局】

（荒川上流河川事務所）

（荒川下流河川事務所）

（二瀬ダム管理所）

「ダムなんでも相談室」

【ダム工学会 C M E D 会】

「水と共に生きる」

【農林水産省・（社）農業農村工学会】

「水のふるさと 森林」

【（社）日本治山治水協会】

「飲料水を汚染から守ろう！」

【（社）全国建築物飲料水管理協会】

「節水トイレが地球を救う」

【日本衛生設備機器工業会】

「水の不思議」

【TOTO(株)】

「water alive 水道水を飲もう！」

【三菱レイヨン・クリンスイ(株)】

「エコ×エネ体験プロジェクト」

【電源開発(株)】

「感じてみよう、触れてみよう！発電所の自然たち」

【東京電力(株)】

特別展示

平成22年度水資源功績者

【国土交通省】

第32回 全日本中学生水の作文コンクール 優秀作品

【国土交通省・都道府県】

第25回 水とのふれあいフォトコンテスト 入賞作品

【水の週間実行委員会】

「水の安全・安心を考える

～知っているようで意外と知らない、身近な水のことについて～」

「主 催 者 展 示」



【国土交通省水資源部】 「意外と知らない、日本の水・世界の水」



【東京都水道局】 「からだとくらしにいい習慣。東京水」



【水の週間実行委員会】 「水はどこからくるの?」

「一般展示」



【国土交通省関東地方整備局】 「荒川を知ろう・学ぼう！」

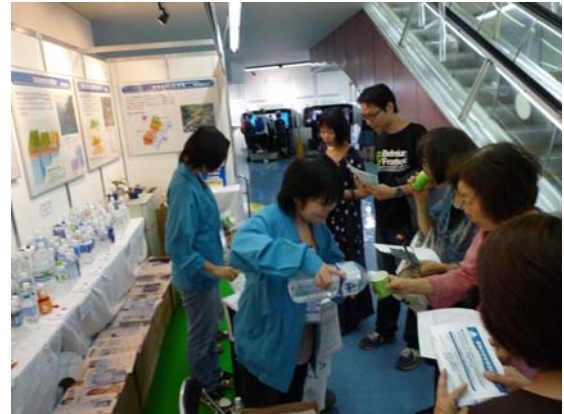
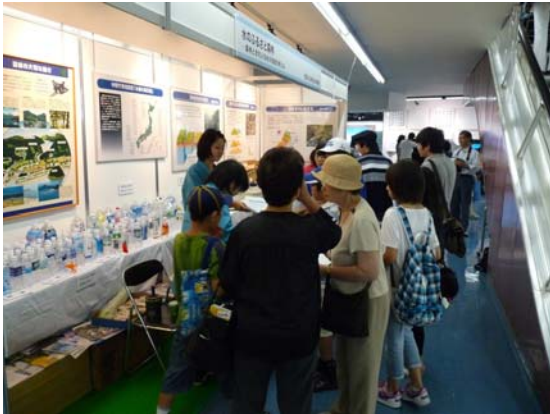


【ダム工学会 CMED 会】 「ダムなんでも相談室」



【農林水産省・(社) 農業農村工学会】 「水と共に生きる」

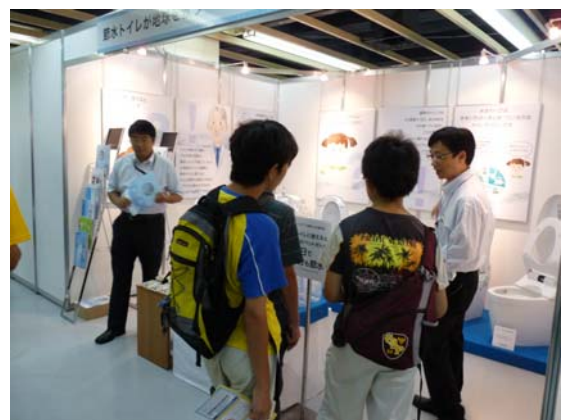
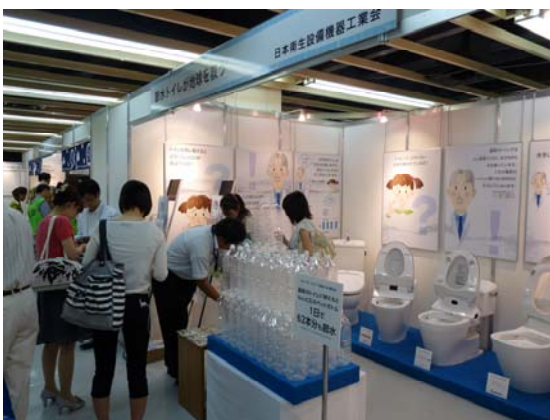
「一般展示」



【(社) 日本治山治水協会】 「水のふるさと 森林」



【(社) 全国建築物飲料水管理協会】 「飲料水を汚染から守ろう！」



【日本衛生設備機器工業会】 「節水トイレが地球を救う」

「一般展示」



【TOTO(株)】



「水の不思議」



【三菱レイヨン・クリンスイ(株)】



「water alive 水道水を飲もう！」



【電源開発(株)】



「エコ×エネ体験プロジェクト」

「一般展示」



【東京電力㈱】 「感じてみよう、触れてみよう！発電所の自然たち」

「特別展示」



【平成22年度水資源功績者】



【第32回 全日本中学生水の作文コンクール】
(優秀作品)



【第25回 水とのふれあいフォトコンテスト】
(入賞作品)

平成２２年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、平成２２年度水資源功績者として表彰されました。水源地域対策、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことが表彰の対象となり、水の週間関連表彰式において三日月大造国土交通副大臣から表彰状が授与されました。

〔個人〕５名

受賞者	功績概要
えびえ くにお 海老江 邦雄 (北海道)	網走湖水質保全対策検討委員会水質部会長、北見市水道水の断水に関する原因技術調査委員会委員長、常呂川の濁水に関する流域検討会座長などを歴任され、技術的知見から長年にわたり、水質環境改善の施策の推進に多大な貢献をされた。
もりした 森下 キミ (群馬県)	渡良瀬川におけるかんがい期銅の水質目標値監視のための採水業務を、昭和４９年から平成２１年まで従事され、水資源の安全確保にご尽力された。
わたなべ さだもと 渡邊 定元 (静岡県)	全国に先駆けて、列状間伐（３残１伐）モデル林を提案、指導し、水源涵養機能等に配慮した森林整備等の推進に貢献された。また、富士山域森林の水源涵養機能を概数予測する「富士山方式」の提唱や、富士山麓自然林復元活動を行うなど、水資源の保全・涵養に尽力された。
すぎたに のぶひろ 杉谷 信弘 (福岡県)	五ヶ山ダム水没対策協議会の会長として、補償問題等の解決や、水源地域整備計画の策定における、地域内での意見集約や調整等に尽力され、五ヶ山ダム建設の推進・水資源の開発促進に貢献された。
みやもと ひろみつ 宮本 博光 (実行委員会)	「水の日」及び「水の週間」の中央行事であるウォーターフェア東京やウォーターフェア隅田川レガッタ等の実施にあたり、草創期より、中心的な役割を担い、長年にわたり水資源行政の推進・啓蒙活動に貢献された。

〔団体〕 6 団体

受賞者	功績概要
なついがわつづみ 夏井川堤の景観を創る会 (岩手県)	夏井川周辺の環境整備・美化、上流での環境調査や間伐作業体験研修に取り組むほか、世代間協力による地域コミュニティ作りに取り組むなど、水源地域における水資源の保全・地域活性化に大きく貢献されている。
仙台リバーズネット・ ^{うめだがわ} 梅田川 (宮城県)	使用済み樽を再生利用した雨水タンク「仙台天水桶」や雨水浸透枡の普及活動を通じて、雨水の貯留・浸透の促進を図ることにより、下水道への負荷を低減するとともに、水資源の有効利用に貢献されている。
なんこ 南湖清掃ボランティア (福島県)	南湖において、「池干し」清掃や地元小学校と連携した水質浄化プロジェクトを行い、水質の改善に貢献されている。さらには、大学研究者らと協働して、動植物・生態系の記録化も行っている。
ひやっけん び ゆぐみ 百間樋井組 (兵庫県)	昭和32年より、百間樋導水路のかんがい用水と水道水の共用利用を始め、長年にわたって、西宮市水道局と連携し、常時の巡回・点検・水利活動等に尽力され、良好な水源の確保に貢献されている。
みささ 三朝温泉かじか蛙保存研究会 (鳥取県)	三徳川源流域において、かじか蛙の保護活動を通じて、広葉樹の植樹活動や、地域住民・観光客に対しても水環境保全の啓発活動を行い、水源地域の保全に大きく貢献されている。
ふしのがわ 樫野川の源流を守る会 (山口県)	樫野川源流の環境保全を目的として、土地を公有化するための募金活動等を実施するとともに、樫野川流域地域通貨連携促進検討協議会を立ち上げ、地域通貨「フシノ」の発行を通じて、行政、団体、商店が協働した流域保全活動を展開しており、水資源の保全だけでなく、地域の活性化にも貢献されている。



第32回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外に居住する日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を開催しました。第32回を迎えた今年は、総数16,941編の応募がありました。各都道府県での応募作品について各都道府県で地方審査等が行われ、優秀とされた作文（各都道府県3編以内）が中央審査対象として送付され、その数は128編にのびました。これら128編の中から、中央審査会において、最優秀賞1編、優秀賞5編及び入選28編が選ばれました。

今回の実施状況は、次のとおりです。

（1）主催等

主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構

（2）募集要領

①テーマ：「水について考える」（題名は自由）

②原稿：400字詰原稿用紙4枚以内

③募集期間：平成22年6月16日（水）まで

ただし、外国に居住する者にあつては、平成22年5月28日（金）まで

（3）応募状況

応募学校数：378校

応募総数：16,941編

（4）中央審査会審査委員 ※50音順、敬称略

河野 克明（独立行政法人水資源機構理事）

須田 淳一（全日本中学校長会編集部副部長）

須磨 佳津江（キャスター）

田村 雄一（社団法人日本水道協会調査部次長）

長崎 宏子（スポーツコンサルタント）

西川 智（国土交通省水資源部水資源政策課長）



第32回全日本中学生水の作文コンクール入選者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな氏名	学年	学校名
最優秀賞 国土交通大臣賞	香川県	「水」を考える	まつもと さき 松本 咲葵	2	かがわだいがくきょういぐくふふぞくたかまつちゅうがっこう 香川大学教育学部附属高松中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	栃木県	水とくらし	とくもり みさき 徳森 美咲	2	しりつ さくしんがくいんちゅうとうぶ 私立作新学院中部
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	茨城県	一滴の水	ひろせ ゆうき 廣瀬 裕貴	1	つちうらにほんだいがくちゅうとうきょういぐくがっこう 土浦日本大学中等教育学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	熊本県	水からのおくり物	あらき みさと 荒木 美里	1	くまもとけんりつうとちゅうがっこう 熊本県立宇土中学校
優秀賞 国土交通省土地・水資源局水資源部長賞	栃木県	心のダム	いしおろし かおり 石下 香織	2	はまたしりつ ついずあちゅうがっこう 矢板市立泉中学校
優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞	島根県	「水の力」	よこやま あやの 横山 綺乃	1	はまだしりつ やさかちゅうがっこう 浜田市立弥栄中学校
入選（28編）	北海道	未来へ続け「はこだての水」	いずみ あやな 泉 采七	3	しりつ はこだてしらゆりがくえんちゅうがっこう 私立函館白百合学園中学校
	秋田県	その一滴の水が、百人の未来を紡ぐなら	やまだ はるか 山田 悠	3	よこてしりつ つおとりちゅうがっこう 横手市立鳳中学校
	福島県	水と共に生きる	あらい まりあ 荒井 真愛	2	こおりやましりつこおりやまだいにしちゅうがっこう 郡山市立郡山第七中学校
	福島県	せせらぎを取り戻せ	ほし ゆい 星 結衣	3	すかがわしりつにしぶくちちゅうがっこう 須賀川市立西袋中学校
	栃木県	世界と水	はっとり まゆこ 服部 真由子	2	とちぎしりつとうようちゅうがっこう 栃木市立東陽中学校
	千葉県	大切な美味しい水	はぎわら みなこ 萩原 聖名子	1	しりつしょうわがくいんちゅうがっこう 私立昭和学院中学校
	千葉県	もしも水道が無かったら	こん たかし 今 貴志	1	とうかいだいがくふぞくうやすこうがっこうなかとうぶ 東海大学付属浦安高等学校中等部
	千葉県	世界を旅する水	すずき ちひろ 鈴木 千尋	2	かもわしりつつかもがわちゅうがっこう 鴨川市立鴨川中学校
	東京都	今、当たり前にできる幸せ	ながい なな 長井 奈々	3	おおたくおおもりひがちゅうがっこう 大田区大森東中学校
	神奈川県	「知識」を「意識」に変える	いわした かおり 岩下 紫	3	かわさきしりつあさおちゅうがっこう 川崎市立麻生中学校
	神奈川県	「緑のダム」を守る	すずき さやか 鈴木 沙也花	3	やまきたしょうりつ みほちゅうがっこう 山北町立三保中学校
	富山県	水の国、日本	かめい かなこ 亀井 香菜子	3	たかおかしりつこうりょうちゅうがっこう 高岡市立高陵中学校
	京都府	水と共に生まれ、水と共に生きる	つじ あんな 辻 晏奈	1	しりつきょうとがくえんちゅうがっこう 私立京都学園中学校
	大阪府	洗面器三はいからはじめよう	やまぐち じょう 山口 穰	1	おおさかきょういぐくふぞくいけだちゅうがっこう 大阪教育大学附属池田中学校
	大阪府	命の源の「水」を大切に	やまもと まよ 山本 麻生	2	おおさかきょういぐくふぞくいけだちゅうがっこう 大阪教育大学附属池田中学校
	奈良県	水の源流地に住む私にできること	なか はるこ 中 暖子	2	やまぞえそんりつやまぞえちゅうがっこう 山添村立山添中学校
	和歌山県	「川を大切に」	さかた ゆきひさ 坂田 幸久	1	きんきだいがくふぞくわかやまちゅうがっこう 近畿大学附属和歌山中学校
	岡山県	未来への願い	くさち あすみ 草地 明日美	3	きんぎゅうおうとうりつつかもがわちゅうがっこう 吉備中央町立加茂川中学校
	福岡県	今、あなたに伝えたい	えがしら しほ 江頭 史歩	3	ふくおかきょういぐくふぞくくるめちゅうがっこう 福岡教育大学附属久留米中学校
	福岡県	水への感謝	ふかむら ひかる 深村 光	3	ふくおかきょういぐくふぞくくるめちゅうがっこう 福岡教育大学附属久留米中学校
	熊本県	棚田に映る空	なかしま えいか 中嶋 英華	2	くまもとしりつにしきがしかちゅうがっこう 熊本市立錦ヶ丘中学校
	熊本県	熊本の水	たかき せいか 高木 精華	3	くまもとしりつさんわちゅうがっこう 熊本市立三和中中学校
	宮崎県	一輪の花の美しさに気づく心を	きした おくと 木下 憶斗	2	けんりつみやざきにしこうとうがっこうふぞくちゅうがっこう 県立宮崎西高等学校附属中学校
	鹿児島県	豊かな水に恵まれて	たけおか ふみこ 竹岡 史子	1	かごしましりつ わだちゅうがっこう 鹿児島市立和田中学校
	沖縄県	世果報の水	すながわ みほ 砂川 美穂	2	いしがきしりつ おおはまちゅうがっこう 石垣市立大浜中学校
	沖縄県	水を守り、島を守る	しもじ だまどか 下地 まどか	3	みやこじましりつぐすぐちゅうがっこう 宮古島市立城辺中学校
	海外 (ロシア)	世界の水	やました ゆめ 山下 友萌	1	にほんじんがっこう モスクワ日本人学校
	海外 (タイ)	南国タイが教えてくれたもの	やまの こうた 山野 滉太	2	にほんじんがっこう バンコク日本人学校

第25回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
 後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
 協賛 富士フイルム株式会社

テーマ ・ 水辺の憩い、水のある風景
 ・ 暮らしの中で毎日使う水
 ・ 作物や草木を育て、エネルギーを生む水
 ・ ダムや水路など水をつくる施設
 ・ 歴史とともにある街の中の水 等

募集期間 平成22年4月5日（月）～6月4日（金）
応募状況 総計 3,290点
表彰 平成22年8月2日（月）
 水の週間関連表彰式において（グランプリ、優秀賞）
作品展示 平成22年7月30日（金）～8月 1日（日）
 東京北の丸公園内 科学技術館2F 展示ホール

審査員（敬称略）

中谷 吉隆 （写真家、日本写真協会(PSJ)会員）
内田 勲 （写真家、日本写真作家協会(JPA)会員）
片岡 友理 （著述家）
五十嵐 太乙 （国土交通省土地・水資源局官房審議官）
河島 均 （東京都技監兼都市整備局長）
山本 徳治 （水の週間実行委員会運営委員長）



第25回水とのふれあいフォトコンテスト受賞者一覧

〔グランプリ〕 国土交通大臣賞

多 和 裕 二 （東京都）

画題：「隅田川遊覧」



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

山 崎 泰 （栃木県）

画題：「日本一が見える」



○ 水の週間実行委員会会長賞

渡 部 久 恵 （栃木県）

画題：「水と戯れる」



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

向 後 寛 治 （千葉県）

画題：「おだやかな日」



〔特別賞〕 1名

○ 富士フィルム賞

川 口 善 也 （岐阜県）

画題：「シャボン玉」



〔特 選〕 5名

「水辺にたたずむ」	吉 田 満 昇	（愛知県）
「放流」	木 村 一 昭	（埼玉県）
「いい気持ち」	牧 原 昭 文	（鳥取県）
「棚田のたごしらへ」	大 野 隆 男	（和歌山県）
「放水」	宮 地 敏 雄	（佐賀県）

〔入 選〕 10名

「ダイビング」	望 月 始	「ワクワク散歩」	内 沼 英 城
「悠久の流れ」	平 田 晃 一	「ダム排水口」	橘 初 雄
「清流夏の冒険」	松 崎 盛 樹	「兄ちゃんが飛んだ」	水 落 幸 雄
「象のすべり台」	黒 瀬 博 恭	「春」	濱 寄 真 澄
「好奇心」	小 畑 一 弘	「水上散歩」	中 村 光 雄

※ この「水とのふれあいフォトコンテスト」は、「河川整備基金」の助成を受けて実施しております。

「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力（閣議了解）に基づき昭和 63 年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方募金委員会等が資金を拠出（寄付）して造成されているものです。

この基金の運用益（利息）から、安全で良好な“河川環境”を目指してよりよい“川づくり”に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。

河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。

第30回ウォーターフェア隅田川レガッタ

隅田川は、水資源開発公団（現（独）水資源機構）武蔵水路事業により河川水を荒川から隅田川に導入する浄化用水の効果と東京都における下水道の整備事業が進んだことと、近年行われている新しい水辺空間の創出の効果とが相乗し快適な水辺空間を多くの市民に提供できる憩いの場となりました。

高度経済成長期以降の劣悪な水質に著しい変化を遂げ水質の浄化が進んだことにより人々の生活の場に再び戻ってきた隅田川の姿を喜び、水に親しむ“水の週間”行事の一環として昭和56年から開催され、春の早慶レガッタとともに夏の隅田川の風物詩として定着してきた「ウォーターフェア隅田川レガッタ」も今年で30回目を迎えました。

今年の隅田川レガッタは、天候にも恵まれた中での開催となり、レース前には恒例となっている主催者による競漕の安全とレガッタ開催の告知を兼ねた浅草寺への安全祈願を行いました。

多くの観客（約5,000名）が見守る中、参加登録61クルー（選手503名）にのぼる参加者の競漕と応援による熱戦が繰り広げられ、日頃から鍛えた自慢の腕を披露し観客からは惜しめない拍手が送られました。また、墨田区内の中学校吹奏楽部による「水のコンサート」や墨田区太鼓連盟による勇壮な和太鼓の応援演奏も行われ、ウォーターフェア隅田川レガッタの開催に華を添えました。

日 時	平成22年8月8日（日）10:00～16:30
コ ー ス	隅田川言問橋～吾妻橋（500m／ウォーターフェアコース）
主 催	一般社団法人東京都ボート協会
後 援	国土交通省、東京都、墨田区、台東区、墨田区教育委員会、 独立行政法人水資源機構、千葉県香取市、社団法人日本ボート協会、 欧州連合駐日欧州委員会代表部
特別協力	墨田区立中学校吹奏楽部（墨田・吾嬬第一・吾嬬第二・立花） 墨田区太鼓連盟、早慶レガッタ運営委員会
協 力	日本赤十字社東京都支部、関東漕艇学生連盟、財団法人東京都公園協会、 社団法人東京港運協会、全国内航タンカー海運組合、屋形船東京都協同組合、 東京都観光汽船株式会社、隅田川市民交流実行委員会、江東明るい社会づくり の会、墨田明るい社会づくりの会、台東明るい社会づくりの会、隅田川ローイ ングクラブ、向島五丁目西町会、金曜会、江戸川区ボート協会
協 賛	水の週間実行委員会、墨田区観光協会、浅草観光連盟、 協同組合浅草商店連合会、アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、 東武鉄道株式会社、ライオン株式会社、隅田川文庫
競 漕	27レース
競漕種目	①一般男子エイト ②中学男子ナックルフォア ③中学女子ナックルフォア ④一般男子ナックルフォア ⑤一般女子ナックルフォア ⑥一般ミックスエイト ⑦区市町村対抗ナックルフォア ⑧ボート教室対抗ナックルフォア



力漕するクルー



和太鼓による応援演奏



水のコンサート i n 隅田川



表彰式



隅田川浄化用水に関するパネル展示

第30回ウォーターフェア隅田川レガッタ競漕結果

クルー名	順位	HC換算 平均タイム	クルー名	順位	HC換算 平均タイム
【男子エイト】			【中学女子ナックルフォア】		
CONCORDIA RC	1	1' 18"27	錦糸中学	1	2' 31"17
駿台艇友会	2	1' 22"40	江戸川区中学連合	2	2' 53"54
無限	3	1' 26"41	堅中A 女子	3	3' 17"71
スリーダイヤ71		1' 28"57	堅中B 女子		3' 33"20
チャレンジャーズ		1' 28"63	【区市町村対抗ナックルフォア】		
濃青会ダークブルーズ		1' 28"82	堅川中学校教員チーム	1	2' 15"29
学習院桜艇会シルバースターズ		1' 29"57	江戸川区役所ボート部	2	2' 18"22
「多摩川」マスタース・タマちゃんズ		1' 30"10	墨田区漕艇部	3	2' 18"69
警視庁ボートクラブ		1' 30"38	台東区役所		2' 47"68
LBRC50		1' 30"92	【ボート教室対抗男子ナックルフォア】		
四神会A		1' 31"38	旧中川ボート教室	1	1' 55"02
三田漕マスタース		1' 31"48	「多摩川」ミドル・タマちゃんズ	2	1' 56"85
パルテ会		1' 34"39	レガッタクラブ フレンドシップ	3	2' 04"22
蔵前・図南合同クルー		1' 34"66	かわせみ		2' 30"04
稲門漕ごう会1組		1' 35"37	【ボート教室対抗女子ナックルフォア】		
TBC		1' 35"75	レディー・タマちゃんズ	1	2' 04"59
大倉106		1' 39"28	旧中川ボート教室	2	2' 32"86
四神会B		1' 39"77	あいりす	3	3' 09"48
白門艇友会		1' 46"56	【一般男子ナックルフォア】		
名古屋RC		1' 48' 01	白鬚会	1	1' 58"64
隅田川ローイング・クラブ傘寿クルー		1' 52"70	からはしろ〜いんぐ	2	2' 00"51
【MIXエイト】			宮歯RC	3	2' 04"24
スリーダイヤMX	1	1' 55"23	EDOGAWA青い流星		2' 06"22
MBC セントキャサリン	2	2' 01"17	伝説の最強クルー		2' 08"88
【中学男子ナックルフォア】			Chiyo Row倶楽部		2' 12"14
「多摩川」ジュニア・タマちゃんズ	1	2' 13"78	旧中川で漕ごう会		2' 19"57
錦糸中学男子A	2	2' 21"15	MIZUボートクラブ		2' 24"21
錦糸中学男子B	3	2' 36"75	学習院高等科		2' 24"51
江戸川区中学連合		2' 38' 02	幻のブルームフォンテーン号		2' 28"08
錦糸中学男子D		2' 40"73	レークサイドローイングクラブ		棄権
錦糸中学男子C		2' 54"14	【一般女子ナックルフォア】		
堅中B 男子		3' 05"46	パルテ会	1	2' 32"06
堅中A 男子		3' 41"47	ママさんパワーズ	2	2' 49"65
			舞花・タマちゃんズ	3	2' 49"91

利根川水系における上下流交流

○ 「草木湖まつり」における上下流交流

8月15日（日）、群馬県みどり市東町の草木ダム下流の東運動公園において、約 12,000 名の方が来場し、「第33回草木湖まつり」が開催されました。

普段、私たちは当たり前のように水を利用していますが、その水を生み出すために、住み慣れた先祖伝来の土地から移り住んでいただくなど、水源地域の方々の大変なご苦労とご協力があったことはあまり知られていません。

草木湖まつりは、草木ダム建設に伴い移転した旧東村の移転者の方々に、年に一度はふるさとで楽しい日を過ごしていただきたいという想いと、利根川水系の水源地域の方々と下流流域で水を使用する人々との相互理解・相互交流を図り、上下流交流を促進しようという目的で開催されています。

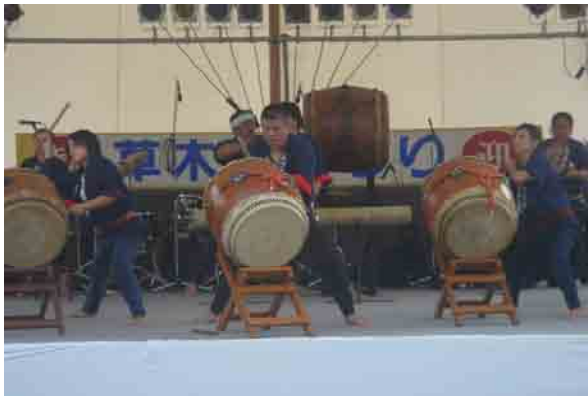
当日は、メイン会場の東運動公園で「鱒のつかみどり」や「東京水のPR」など様々なイベントが行われたほか、草木ダムの見学会や上下流交流の一環として下流受益地である東京都から墨田区太鼓連盟の方が参加し、あづま太鼓による勇壮な演奏を披露してお祭りを盛り上げました。



恒例・鱒のつかみどり



東京水のPR



墨田区太鼓連盟による演奏



草木ダム見学会

水の週間一斉打ち水大作戦

○ 水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省の状況

平成22年8月2日（月）に、中央合同庁舎3号館正面玄関前にて「水の週間一斉打ち水大作戦」in 国土交通省を実施しました。

昨年度から、「水の日」「水の週間」に併せた全国一斉打ち水大作戦として取り組んでおり、国土交通省の職員の手作りによる「打ち水」イベントも、今年で7回目となりました。

当日は、甲村技監をはじめとして約160名の方々にご参加いただきました。また、水の週間に関連する表彰式を国土交通省内で執り行った関係で、今回はじめて、全日本中学生水の作文コンクール、水資源功績者、水とのふれあいフォトコンテストの各受賞者等の方々にもご参加いただくとともに、浴衣姿で参加いただいた女性職員が約20名にも及び、大変賑やかな打ち水イベントとなりました。

打ち水に使用する水は、東京都下水道局より下水再生水を約400リットルご提供していただくとともに、国土交通省職員が自ら、庁内のお風呂の残り湯、約70リットルを準備致しました。

10分程度の打ち水でしたが、皆で一斉に行った結果、温度は開始前の37度から36度へと、1度下がり、会場には涼しい風が吹き抜けていきました。

また中学生の皆さんをはじめとする各受賞者の方々も、打ち水をしている間に、次第に職員ともうち解け、楽しみながら水の大切さを知って貰えたかと思います。



○ 水資源機構の取り組み

平成22年8月3日（火）、JRさいたま新都心駅西口歩行者デッキ上において、暑さを和らげる試みとして、「打ち水大作戦」（主催：さいたま市下水道局）が開催され、機構も後援団体として参加しました。

打ち水（散水）には、貯水された雨水を利用しており、夏休みの子供たちをはじめ、延べ約500名の方が参加されました。

その結果、路面温度は40度から34度まで下がり、参加者された方々は、つかの間の涼感を楽しましました。



国や地方公共団体等での実施状況

国土交通省をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に対する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

① ポスターの掲示

「水の安全・安心を考える～知っているようで意外と知らない、身近な水のことについて～」を共通テーマとして刷り込んだポスター約20,900枚が作成され、関係府省庁、都道府県、市町村、中学校等に配布、掲示されました。

② 冊子の配布

平成22年版日本の水資源（水資源白書）の内容をわかりやすくまとめ、年齢層を広くカバーできる内容とした一般向け冊子「日本の水2010」が約35,000部、さらにこれを児童向けにとりまとめた冊子「水がいのちをそだてる」6,000部がそれぞれ作成され、都道府県をはじめ、市町村や小中学校、報道機関等を対象として、各種展示会、講演会、施設見学会等、水の週間の行事を開催するなかで幅広く配布されました。

③ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、全国における水の週間の中央行事として位置づけられる「ウォーターフェア'10東京」として、水の週間記念シンポジウム、水の展示会、隅田川レガッタをそれぞれ実施したほか、国土交通省内において水の週間関連表彰式（平成22年度水資源功績者、第32回全日本中学生水の作文コンクール、第25回水とのふれあいフォトコンテスト）を執り行いました。

各都道府県等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、水の展示会、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰等の各種活動が実施されました。

全国の各都道府県等における行事の取り組み状況は、次のページをご覧ください。

第34回「水の週間」(平成22年度)都道府県等行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン アンケート	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	47	10	20	7	18	47	3	7	7	12	31	17
北海道	○	○		☆		☆	◎					○	
青森県	○	○					◎						○
岩手県	○	○					◎						
宮城県	○	○					◎						
秋田県	○	○		☆			○						
山形県	○	○	☆	☆	☆	☆	○				☆		
福島県	○	○	◎	☆		◎	◎		○		☆	○	☆
茨城県	○	○	○	◎		○	◎					○	
栃木県	○	○					◎		○		○	○	
群馬県	○	○	○	◎		○	◎						
埼玉県	○	○					◎				○	○	○
千葉県	○	○		○		○	◎					○	○
東京都	○	○	○	◎		○	◎			○	○	○	○
神奈川県	○	○				◎	◎				○	○	
新潟県	○	○					◎			○		☆	
富山県	○	○	☆	☆			◎			○		○	
石川県	○	○					◎					○	
福井県	○	○				○	◎				◎	◎	
山梨県	○	○					○						
長野県	○	○					○						○
岐阜県	○	○		○			◎		○			○	
静岡県	○	○	○		◎		◎					○	◎
愛知県	○	○		☆		◎	◎	○	○		◎	○	☆
三重県	○	○	☆	☆			◎					○	
滋賀県	○	○					◎					○	
京都府	○	○				○	◎					○	
大阪府	○	○		◎	☆	☆	◎				☆	◎	☆
兵庫県	○	○					◎						
奈良県	○	○		◎		◎	◎	○			○	○	○
和歌山県	○	○					◎		○			○	
鳥取県	○	○		◎			○						
島根県	○	○					◎					○	
岡山県	○	○					○						
広島県	○	○					◎					○	
山口県	○	○	☆				◎					○	
徳島県	○	○			◎	☆	◎						○
香川県	○	○		◎	◎		◎			○		○	
愛媛県	○	○		☆		◎	○						◎
高知県	○	○		☆	◎		◎	○	○		○		
福岡県	○	○			◎		◎		○		○	○	○
佐賀県	○	○		☆		☆	◎					○	
長崎県	○	○		☆			◎			○			
熊本県	○	○	○			○	◎			○		○	○
大分県	○	○					◎					○	☆
宮崎県	○	○					◎			○		○	○
鹿児島県	○	○					◎						
沖縄県	○	○				○	◎					○	○

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示す。

「パンフレット」欄の○は、「日本の水2010」(制作:(財)水資源協会)を配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加えて市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

第34回水の週間新聞等報道状況

月 日	新聞名	地域	見 出 し
4月25日	宮崎日日新聞外	地方	第32回「全日本中学生水の作文コンクール」作品」作品募集
7月14日	常陽新聞	地方	水の大切さ知って 小学生が見学会 霞ヶ浦用水管理所
7月20日	日刊建設産業新聞	全国	30日に水の週間シンポ
7月21日	中日新聞	地方	猛暑の名古屋 一服の清涼剤(打ち水関連記事)
7月26日	建設通信新聞	全国	水の週間記念シンポ 国交省が30日
7月28日	四国新聞	地方	松本さん最優秀 全日本中学生水の作文コンクール 「大切さ分かりやすく」
7月30日	日刊建設産業新聞	全国	水の貴重さや大切さを今一度
7月30日	日刊建設工業新聞	全国	8月1日は「水の日」 8月1～7日は「水の週間」
7月30日	日本経済新聞	全国	8月1日は「水の日」 身近で限りある資源 水をめぐる問題を考える
7月30日	日本経済新聞	全国	各地イベントなど開催 水資源への理解を深める
7月31日	四国新聞	地方	水の大切さ再認識 小学生ら宝山湖巡る
7月31日	東愛知新聞	地方	「水の週間」で施設見学会
8月1日	新潟日報	地方	県からのお知らせ(節水への呼びかけ)
8月1日	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	読売新聞	地方	特集「水の日」
8月1日 ～7日	四国新聞	地方	節水ウィークの呼びかけ
8月2日	日刊建設工業新聞	全国	水ビジネスの実現へ 水の週間記念シンポ 実行委員会
8月2日	毎日新聞	地方	「水の大切さを考えて」 比奈知ダムで見学会
8月2日	日刊建設工業新聞	全国	水ビジネスの実現へ 水の週間記念シンポ 実行委員会
8月2日	日刊建設工業新聞	全国	水の週間記念シンポ 国交省ら
8月2日	日本水道新聞	全国	第34回「水の日」「水の週間」 水の安全・安心に思い巡らせて
8月2日	熊本日日新聞	地方	荒木さん優秀賞(全日本水の作文コンクール)
8月2日	福井新聞	地方	涼求め打ち水500人効果体感
8月3日	産経新聞	地方	水の大切さ学ぶ浄水場見学会
8月3日	日刊建設通信新聞	全国	第34回「水の日」8月1日 「水の週間」8月1～7日 身近な水を考える
8月3日	北海道新聞	地方	打ち水で涼しさ実感 岩見沢で一斉大作戦
8月3日 ～8日	長崎新聞	地方	作文コンクール県入賞作文の掲載
8月4日	産経新聞	地方	新都心で「打ち水大作戦」
8月4日	中日新聞	地方	牧尾ダム見学し交流
8月4日	富山新聞	地方	中学生水の作文 入賞者を表彰
8月4日	北日本新聞	地方	亀井さんら8人表彰(水の作文コンクール)
8月4日	プレス空知	地方	「打ち水」効果で涼しげに「水の週間」で行事
8月4日	静岡新聞	地方	水の週間記念作文コンクール 片山、小林さん知事賞
8月5日	北陸中日新聞	地方	「水の作文」コン入賞中学生表彰
8月5日	信濃毎日新聞	地方	愛知用水 上下流の縁で交流
8月5日	水道産業新聞	全国	”巧水スタイル”を提案 水の週間記念シンポ
8月5日	水道産業新聞	全国	海老江氏が水資源功績者表彰 水の週間
8月5日	土地改良新聞	全国	「水と共に生きる」 全国各地の水車を紹介
8月5日	水道産業新聞	全国	国土交通省で打ち水大作戦
8月5日	北海道新聞	地方	夏の藻琴川 美しく
8月6日	東海日日新聞	地方	水資源機構 宇蓮・大島ダムへ小学生招待
8月6日	上毛新聞	地方	15日にみどり市・草木湖まつり
8月7日	京都新聞	地方	農業と水 つながり探検 南丹の児童 ダム見学
8月8日	読売新聞	地方	水資源「大切さ分かった」 室生ダムなど見学
8月11日	環境新聞	全国	水の週間で各種イベント
8月14日	上毛新聞	地方	草木ダムを見に行こう
8月16日	交通新聞	全国	地球温暖化・ヒートアイランド緩和へ
8月16日	建設工業新聞	全国	節水は新たなビジネスになるか? 「水の週間」シンポで討論

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6.26)
(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第1回水資源に関するシンポジウム （10.25）	・水の週間閣議了解（5.31） ・国連水会議（3.14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア’78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （ 5.8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’79 （船の科学館） ○第1回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’80東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しまし いのちの水・水とのであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’81東京 （科学技術館） ○第1回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’82東京 （科学技術館） ○第2回水資源に関するシンポジウム （8.3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’83東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’84東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’85東京 （科学技術館） ○ウォーターフェアKOB E （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’86東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第1回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’87東京 （科学技術館） ○第3回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （ 8.4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォータープ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’88東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’89東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’90東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水
平成3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’91東京 （東京都庁）	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’9 2 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10.24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないからね	○ウォーターフェア’9 3 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3.22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’9 4 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア’9 5 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、2 0 年。	○ウォーターフェア’9 6 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’9 7 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8.4 ～ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’9 8 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当り前」ではありません！	○ウォーターフェア’9 9 東京 (科学技術館) ・水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画（ウォー タープラン 2 1）策定 ・小渕内閣総理大臣記念式典臨席、展 示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 1 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1.6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 2 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8.2 ～ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’0 3 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’0 4 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’0 5 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア’0 6 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・1 7 年末に全国で大雪、降水量首都 圏は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’0 7 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8.3 ～ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’0 8 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’0 9 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’1 0 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑

※ 全日本中学生水の作文コンクール、ウォーターフェア隅田川レガッタ、水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和53年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和53年5月8日設立総会)

かつて、ケネディは「21世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和52年に8月1日を「水の日」とし、この日から1週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げる必要がある。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長 青山俊樹（独立行政法人水資源機構理事長）

平成22年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員		運 営 委 員	
全 国 水 土 里 ネット	専務理事	佐藤 準	技術顧問	安達 修
造水促進センター	理事長	山本和夫	常務理事	秋谷 鷹二
日本治山治水協会	会 長	山口 俊一	専務理事	田尾 秀夫
日本河川協会	会 長	虫明 功臣	常務理事	住吉 豊明
日本工業用水協会	会 長	神田 眞秋	総務部長	芳田 丈夫
日本水道協会	専務理事	御園 良彦	調査部長	松 明 淳
全国簡易水道協議会	会 長	井口 一郎	事務局長	若松 五常
日本下水道協会	会 長	倉田 薫	常務理事	古場新太郎
日本ダム協会	会 長	葉山 莞児	専務理事	横塚 尚志
全国治水砂防協会	会 長	綿貫 民輔	理 事 長	岡本 正男
利根川・荒川水源地域対策基金	理 事 長	志水 茂明	事務局長	梶間 谷 允
	理 事	藤井 友竝		
土 木 学 会	会 長	阪田 憲次	専務理事	古木 守靖
農業農村工学会	会 長	宮崎 毅	専務理事	岩崎 和己
独立行政法人水資源機構	理 事 長	青山 俊樹	総務部長	清水 丞自
	理 事	◎山本 徳治	総務部次長	伊藤 博

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員	
国土交通省（水資源部）	—	審 議 官	○五十嵐 太乙
		水資源政策課長	西川 智
		水資源計画課長	矢野 久志
		水源地域対策課長	斉藤 一雅
		専門調査官	鷹箸 俊孝
東京都（都市整備局）	—	技 監 兼 局 長	河島 均
		都市づくり政策部長	安井 順一
		都市づくり政策部 水資源・建設副産物担当課長	大内 浩之

◎運営委員長 ○運営副委員長

第34回「水の週間」ポスター

確かに
知らないなあ...。

この水って、
どこから
どうやって ここまで
流れてくるのかなあ？

この機会に
確認して
みようよ！

知っているようで意外と知らない、
身近な水のことについて

**水の安心・安全を
考えよう！**

水は限りある貴重な資源です。

8月1日は「水の日」 8月1日~7日は「水の週間」

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページ（<http://www.mlit.go.jp/forecast/earthquake/forecast/forecast.html>）、国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会、もしくは水資源機構ホームページ（<http://www.water.go.jp/homepage/forecast/forecast/forecast.html>）をご覧ください。

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心1 1-2

独立行政法人 水資源機構 広報課内

TEL 048-600-6513